# Ⅲ　住宅内装製品への県内産広葉樹材の活用に関する研究

（実施期間：平成２９年度～３１年度　予算区分：県単　担当：半澤綾菜）

## １　目　的

近年チップ材として扱われることが多くなった広葉樹材について、広葉樹材の特徴を樹種別に調査し、付加価値の高い用材（内装材・家具等）としての活用方法を提案する。

## ２　実施概要

（１）内装ドアの試作

鳥取県産で、紙の原料にされる広葉樹丸太を活用し、内装ドアの試作に取り組んだ。使用した樹種の中に大山町産のコナラも含まれていたことから、完成後は大山開山1300年記念事業に取り組み、来訪者の目に留まりやすくPR効果の高い鳥取県西部総合事務所内に設置した（H30.9.27）。

（２）試作した内装ドアの概要

| | |
|---|---|
| 使用樹種 | ・広葉樹：コナラ、ケヤキ、ミズメ、クリ、サクラ<br>・針葉樹：ヒノキ<br>} すべて鳥取県産 |
| ポイント | ①広葉樹材を活用する上でデメリットとなる「変形」を防ぐために、広葉樹材は板の幅は小さくし（100mm程度）、幅はぎをすることで１枚の大きなパネル（365mm×420mm）にしてドアに使用した。<br>②塗装はせずに木材本来が持つ木目や色彩の美しさを最大限に活かすデザインとした。<br>③すべて広葉樹にすると重くなることや、広葉樹のカラフルさを際立たせるために枠材には軽くて色の白いヒノキを使用した。<br>④他素材（ポリカーボネート）と組み合わせることで、明るさや開放感を演出した。 |

（３）結果

①ドア設置後にドア引渡のセレモニーを行い（H30.10.2）、各種報道機関を通じて広葉樹材の美しさを広くPRした。実際にドアを見た方々からは「木によってこんなに色が違うなんて知らなかった」「おしゃれ、明るくなった」など好評を得ている。

②H31.1.25に、冬季の暖房稼働での乾燥による不具合（板の割れ、反り等）の発生有無について調査を行ったが、不具合はみられなかった。含水率（MOCOで計測）は約10%（8～13%）であった。

## ３　結果の図表と研究の様子

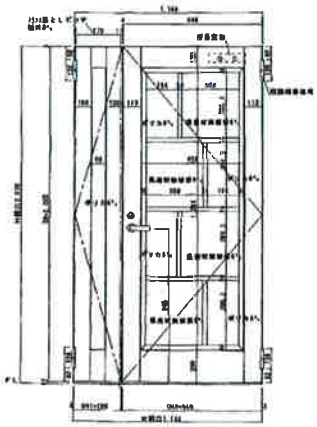

図１　設計図面

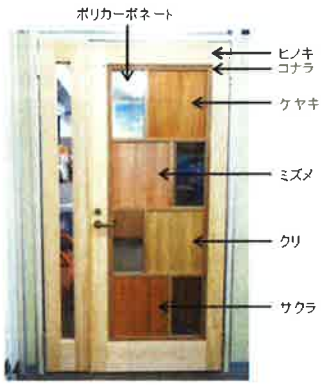


図２　試作した内装ドア

図３　セレモニーの様子